

ようこそ、加賀依緑園へ

当館は、山中温泉を代表する老舗旅館「よしのや」の第二別荘として整備された由緒ある施設です。草津や有馬とともに「扶桑の三名湯」として、遠方からも多くの湯治客を集める山中温泉—その歴史は古く、当館に隣接する長谷部神社に祀られている長谷部信連がこの温泉を再興したとされる八百年前に遡ります。その時代からよしのやは山中温泉とともに歩んできました。

この度、令和三年～令和五年の大規模改修によって「加賀依緑園」として生まれ変わりました。これまで旅館として歩んできた歴史やおもてなしの心を引き継ぎながら、食や工芸などを通して山中温泉の魅力を発信していきます。

依緑園の由来



依緑園という名称は、書家の日下部鳴鶴が明治十八年に宿泊した際に杜甫の漢詩「名園緑水に依る」にちなんで命名されました。

日下部鳴鶴（かきかべめいかく）
天保九年～大正十一年（1838～1922）



〒922-0129 石川県加賀市山中温泉南町口87番地1

アクセス

- 車** 加賀ICより約20分
駐車場は「こおろぎ橋駐車場」をご利用ください。
- 電車** IRいしかわ鉄道線 [加賀温泉駅]→
北陸加賀バス(温泉山中線) [こおろぎ橋] 下車すぐ

営業時間

10:00～18:00 定休日/木曜日(祝日の場合は営業)

入場料

一般/600円
団体/490円(20名様以上)



Tel/0761-71-2683 Fax/0761-71-2972
Mail/info@kagairyokuen.jp



@KAGA_IRYOKUEN



② 庭園

開館当初に遠州流庭園として建築物と庭が一体となった「庭屋一如」の考えのもと作られた庭園。令和の改修では、庭園デザイナー・鳥賀陽 百合氏の監修によって、敷地の傾斜を利用した水の流れをどこから見ても楽しめるようになりました。園内を巡り四季折々の美しさを楽しみながら、散策してみたいかがでしょうか。

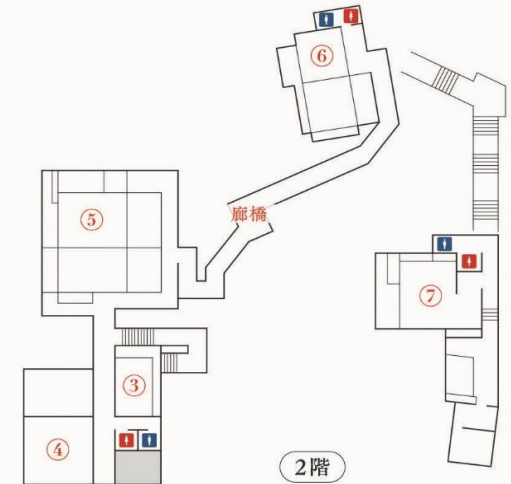
⑤ 御殿（御幸の間）

井波彫刻中興の祖・初代大島五雲が設計し、高名な宮大工である天日仁太郎が腕を振った御殿には、作り手たちの技術が凝縮しています。部屋中央の大島氏が制作した欄間彫刻はもろろんのこと、琵琶棚の樺の一枚板には「群雲の月」と呼ばれる細やかな象嵌装飾を見てとることができます。



⑥ 花月の棟

当館は多くの作家に愛された旅館でした。花月の棟は川端康成が、さらに山手側にあった花篋の間には今東光が、また少し下った春栄の間は吉川英治が執筆のために長期滞在された記録やさまざまなエピソードが残っています。なお、花篋の間と春栄の間は老朽化のために現存していません。



⑦ 唐船の棟・茶室

かつて浴室があった部分は、改修で茶室に生まれ変わりました。京都市の裏千家家元の邸内にある「又隠」という茶室を参照し、内観もさることながら、屋根の一部にはこけら葺きを用いるなど外観の細やかな造作にもこだわっています。唐船の間では、金沢を拠点とするギャラリー「縁煌」による工芸の展示・販売を行っています。

① ラウンジ

本館1階のラウンジでは、加賀依緑園が八百年にわたり歩んできた歴史に関する展示をしています。皇族関係者や文人など著名な宿泊者のご紹介をはじめ、記録に残されたエピソードもご覧いただけます。また、昭和天皇がご宿泊された際に使用された食器類など貴重な史料展示もあります。



④ 菊の間・桐の間

かつて貴賓室と呼ばれていたこれらの部屋は、大正～昭和初期の建築を移設したもので、近代西洋建築の影響が色濃く残っています。なかでも壁に施された「金唐革紙」が目目を惹くことでしょう。菊の間には当時の壁紙が今も残っており、また桐の間では金唐紙研究所によって復元された「金唐紙」が建設当時の輝きを伝えています。

③ 展示室

展示室では金唐革紙を中心とした展示をしています。金唐革紙は、十七世紀にオランダとの貿易によって輸入された革製品から着想を得て、日本で生まれた擬革紙です。明治期には一大輸出産業として栄えながらも昭和戦前に製造技術が一度途絶え、近年になり金唐紙研究所の長年の研究により復元に成功しました。

